

所属	心理学研究科 現代心理学専攻 修士課程	修了年度	2023 年度
氏名	柿崎 智美	指導教員 (主査)	小野寺 敦子

論文題目	中年期就業者の加齢意識がキャリア観に及ぼす影響の検討 ——グリットとソーシャルサポートの視点を加えて——
------	---

本文概要

【問題意識・研究目的】 心理学的に見た中年期は、人生で初めて衰えや限界に直面する発達となる。老いの体験として、身体の不調と心理社会面の減退が挙げられている（若本，2010）。また、内面化されたエイジズム（年齢に対する差別）は、加齢による適応を阻害するとの指摘がある（竹内，2020）。本研究では、これをセルフスティグマと捉え、主観的老いと共に、加齢意識として扱う。本研究では中年期就業者の加齢意識がキャリア観に及ぼす影響を明らかにすることにより、中年期のキャリア発達に有効な知見を得ることを目的とする。加えて、キャリア観への影響に関わるパーソナリティ因子として、粘り強さを表すグリットと、社会的因子としてソーシャルサポートについても検討する。仮説は仮説(1)加齢意識はキャリア観に負の影響を及ぼすだろう。仮説(2)グリットは、キャリア観に正の影響を及ぼすだろう。仮説(3)ソーシャルサポートは、キャリア観に正の影響を及ぼすだろう。仮説(4)加齢意識がキャリア観に及ぼす影響には性差があるだろう。とした。

【方法】 対象者：40才～59才の男女就業者1200名（WEBアンケート）。質問項目：①主観的老いの経験についての質問項目（若本，2006より抜粋）計10項目②年齢スティグマについての質問項目（上瀬，堀，岡本，2010より改変）計5項目③成人キャリア成熟度尺度（坂柳，1999より抜粋）計20項目④日本語版グリット尺度短縮版（西川，奥上，雨宮，2015）計8項目⑤ソーシャルサポート短縮版（森，三浦，2007）計6項目⑥フェイスシート：年齢，性別，転職経験，同居の状況。

【結果・考察】 加齢意識（年齢スティグマ，心理社会面の減退，身体的不調）とグリット（粘り強さ，興味の一貫性），ソーシャルサポートを説明変数，キャリア観として使用したキャリア成熟度尺度の3因子（キャリア関心性，キャリア自律性，キャリア計画性）をそれぞれ従属変数として，40代50代男女の4群に分けて重回帰分析を行なった。その結果，キャリア関心性を従属変数とした場合は，4群すべてにおいて，加齢意識からの影響はみられず，グリットの粘り強さとソーシャルサポートから正の影響がみられた。キャリア自律性を従属変数とした場合，男女年代別の4群すべてにおいて，年齢スティグマからキャリア自律性に負の影響が見られた。また，身体的不調からキャリア自律性では，40歳代男性群では正の影響，50歳代男性群では負の影響となり，年齢が上がるにつれて影響が逆転していることがみられた。これは女性群についてはみられなかった。このため，仮説(1)は一部支持。仮説(2)(3)は概ね支持。仮説(4)は支持されたといえる。

今回の研究では，加齢意識からキャリア自律性とキャリア計画性へは負の影響がみられたが，キャリア関心性には影響がみられないという違いがあった。これについては，キャリア観の時間的展望やキャリアの効力感についての側面の違いが考えられる。中年期は時間的展望の転換期であり，現在が重要となる（白井，1997）。このため，加齢意識に関わらず，現在の生き方やキャリアに関心が高まったため，加齢意識からキャリア関心性へは影響がみられなかった可能性が考えられる。一方で，キャリア自律性は，今後の自己の自律的なキャリア構築を問う要素があると言える。このため，加齢意識からキャリア自律性への負の影響については，今後の社会的な立場や自己の健康面からの「不安」を感じているという意味合いとも考えられる。今回の結果は，日本におけるエイジズムという社会的背景を，スティグマの観点から捉えている可能性が考えられる。